

二度生まれかわった配水塔

稲葉地配水塔は、昭和12(1937)年5月に名古屋駅以西・中村方面の水圧低下への対応としてつくられました。昭和9年9月に着手した名古屋駅の改良計画が明らかとなって以降、市西部の土地区画整理事業が急速に進むとともに、軍需産業の振興により水需要が大きく伸びたためでした。

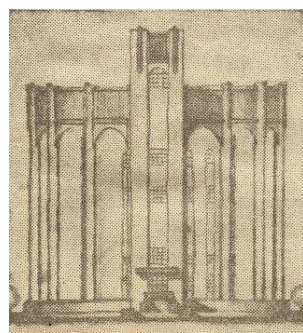
昭和19年には、周辺区域の配水管増強が完了し、約7年間という短い期間で配水塔としての役目を終えました。配水塔完成時には早晩不必要になることが分かっていた運命の塔でした。

その後、昭和40年に「中村図書館」として改修され平成3年まで活用され、さらに平成7年には演劇練習館「アクテノン」へと改修が行われました。配水塔がある稲葉地公園は、地元では当初から水道公園の愛称で親しまれ、二度生まれかわった配水塔は現在も活用されています。

演劇練習館(現在)



古代ギリシア神殿を連想させるような外観



当初新聞発表された図面



建設中の稲葉地配水塔



中村図書館時代

名古屋市の歴代マンホールのふた

昭和52年10月から採用されました。グレイト(grate)とは、格子という意味で、グレイト式ふたはその名のとおり格子状になっています。エア―抜きあるいは浸水防止用に使用されています。

グレイト式ふた

